

風紋（下）



[風紋（下） 下载链接1](#)

著者:乃南 アサ

出版者:双葉社

出版时间:1996/09

装帧:15 x 10.6 x 1.6 cm

isbn:9784575505801

この小説を書いている間にも、世間では実に様々な事件が起きた。

そして、その都度、容疑者については様々な記事が出た。

被害者は、遺族は、常に置いてけぼりを食らうのである。

運命を狂わされ、心に癒し様のない傷を負った人たちを救う手立ては、現在のところ皆無と言って良いと思う。

乃南アサの代表作といえば直木賞受賞の「凍える牙」なんでしょうけど、私としては、この「風紋」を挙げたいです。内容は犯人探しではなくて、前半は心理ドラマ、後半は一部法廷推理になっています。

被害者高浜則子は46歳の主婦。家族は夫と、二浪中の長女、高2の次女の4人家族。そのどこにでもいそうな主婦が次女の父兄会に出席したあとに他殺体で発見される。しかも犯人は長女の元担任。そこから起ってくる残された家族の悲劇が中心に描かれています。

突然母親を奪われた一家、突然夫が逮捕された妻と子供。「犯人意外のすべてが被害者」と言う作者の言葉が重く捉えられます。

被害者になる主婦が父兄会に出かけるまでの日常と、帰って来ない母を待つ次女の徐々に緊迫する感情。その、不安に陥っていく過程で日常が変化していく対比が圧倒的で、一気に読ませます。

6年ぶりくらいの再読なんですが、当時は普通の主婦が殺される事件は、まだまだ珍しかったころ。だからそれだけ衝撃的な内容だったんですね。最近は主婦が被害者になる殺人事件も増えてますが、主婦の生活範囲が変わってるんでしょうか？それとも人間関係が濃密になりやすいのか？

サラリーマンが職場の人間関係で悩んでも、めったなことでは殺人事件にはならないですね。

作者紹介:

乃南アサ（のなみ あさ、1960年8月19日 - ）は、作家。東京都生まれ。カリタス女子中学校・高等学校 - 1980年、早稲田大学社会科学部中退。本名矢沢 朝子。

広告代理店広報堂勤務を経て、1988年に『幸福な朝食』で日本推理サスペンス大賞の優秀作を受賞しデビュー。1996年に『凍える牙』で第115回直木賞を受賞した。

ほかに、『花盗人』、『団欒』など。

目録:

[風紋（下）](#) [ダウンロード1](#)

标签

评论

[風紋（下）_下载链接1](#)

书评

[風紋（下）_下载链接1](#)